

## 病床機能調整ワーキング検討状況について

### 病床機能調整ワーキングの開催

日時：令和2年1月9日（木） 16:00～17:10

場所：山形県庄内総合支庁4階 講堂

内容：報告（1）厚生労働省からの「具体的対応方針の再検証」の要請について

（2）病床機能報告における定量的基準の導入について

（3）管内病院における病床規模の適正化について

（4）外来医療計画について

協議（1）各病院における将来構想について

### 内容の詳細

#### 厚生労働省からの「具体的対応方針の再検証」の要請について

○厚生労働省による公立病院等の再編・統合に係る対象病院の公表について説明し、同省からの要請や県の対応の方向性について共通認識を図った。

#### 病床機能報告における定量的基準の導入について

○病床機能報告について、地域医療構想アドバイザーである山形大学大学院 医学系研究科 村上教授の協力のもと、地域の実情に応じた定量的基準を導入することになったため、同教授から指標の具体的な内容等について御説明いただいた。

#### 管内病院における病床規模の適正化について

○日本海総合病院一本間病院間の地域医療連携推進法人制度による病床融通（昨年8～9月に本協議会で書面協議）、宮原病院（新：みやはらクリニック）の病床数削減について、関係病院長からも御説明いただき、その内容について共通認識を図った。

#### 外来医療計画について

○医療法改正により、都道府県が今年度中に外来医療計画を策定する必要性が生じたことを踏まえ、同計画の全体像について制度上の説明を行った。また、同計画の策定に向けた具体的な協議は、本協議会において行うこととした。

#### 各病院における将来構想について

○各病院における将来構想について出席者から御発言いただき、各病院の現時点の考えについて共有した。

### 主な意見等

○看護師の確保が課題。夜勤回数などを考慮し、病床数に応じた適正な看護配置を考えていかなければならない。

○周囲の開業医で閉院するところもあり、地域の診療所体制を維持できるかが課題。地域密着型の病院として病診連携に取り組んでいきたい。

○稼働率を考えると、真剣にダウンサイジングを考える必要がある。人口減少以上のペースで新規入院患者数は減っていくことを踏まえ、2040年の庄内の姿を視野に入れた上で、あるべき姿を考えていかなければならない。

○それぞれの病院が対応しても地域の全体最適につながらない可能性がある。全体最適を目指した議論が必要。